

## JSMS (Vol. 14, No. 2 : 2023 年 3 月発行予定) の「特集」の原稿募集

2022 年 4 月 21 日

IASM 会員各位

コロナ禍に加えてウクライナと心休まらぬ日が続いていますが、皆様にはご清祥のことと存じます。

早速ですが、下記要領で原稿を募集致しますので、奮ってご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

編纂委員会 特集編集チーム  
玉木 欽也 (青山学院大学)  
安岡 寛道 (明星大学)  
河合 忠彦 (筑波大学)

記

### (1) 特集テーマ： DX and Utilization of Big Data in Various Industries

#### 趣旨

コロナ禍と共生するグレートリセット（大変革）に向けて、DX（デジタルトランスフォーメーション）とそのビックデータ活用を進展させる好機としてとらえたいと思います。

本特集では、さまざまな業界において、DX 技術を活用してどのように業務や活動を変革していくのかの最新動向を調査研究して、ビックデータをどのように収集・蓄積・解析・利用していくのかの方策提言、それらを実現するための新たな研究課題の発見や、さらに新たな人材育成などについて探求していきたいと思います。

投稿テーマとしては、例えば、以下のようなものが考えられます。

1. 企業経営 DX 導入に向けた経営戦略と人材育成
2. 地方中小企業の DX 戦略と課題
3. 地域創生 DX と課題：デジタル田園都市国家構想の動向と今後の展開
4. 大学教育 DX と事例研究

その他

ご投稿の採否の審査は特集編集チームで構成する The Committee of the Special Topic Forum で審査を行い、採択された論文は「招待論文」として特集に掲載され、「同 Committee の査読をパスした論文」という注記がなされます。（これは、特集は通常の査読論文とは違って、萌芽的なテーマについての研究の呼びかけなどを目的とするものであり、通常の査読プロセスには馴染まない側面があるための規定です。）

但し、通常の「査読論文」として特集に掲載されるのをご希望の場合には JSMS の通常の査読手続きに従って査読され、採択された場合は「査読論文」として掲載されます。また、査読論文としてはパスしなかった場合、「招待論文」としての掲載をご希望であ

れば、同論文の審査手続きに従って審査されることになります。

なお、査読料を支払えば投稿可能になりました。投稿時に 4,000 円支払い、査読をパスして掲載された場合には残額の 5,000 円を追加して支払い、査読をパスしなかった場合は残額を支払わなくても良いという仕組みです。この方式で非会員の方への投稿勧誘もお願い致します。

- (2) 原稿提出期限 : 2022 年 11 月 15 日 (但し、「通常の査読論文」の場合は、10 月 15 日)
  - (3) 論文原稿の提出先 : editor@iasm.jp
  - (4) 注意 : 通常の投稿と同じですが、特に次の点に注意してください。
    - ・投稿原稿は JSMS の執筆要領（下記 URL）に準拠して作成してください。  
URL : [http://iasm.jp/english\\_activity5.html](http://iasm.jp/english_activity5.html)
    - ・**英語は必ずネイティブチェックを受けて下さい。**
    - ・投稿に関して不明点がございましたら、論文編集委員会（JSMS）委員（河合）宛てにご連絡をお願いいたします。メールアドレスは下記です。
- メールアドレス : mjkrota8@vega.ocn.ne.jp